

展示コーナー



俳句大会（作品）

11月3日（金）寒川町民センター

俳句大会

十一月三日寒川町民センター

冬季雑詠の俳句と、兼題「さつまいも」を相互選し、入賞者を決める。
全区、五十二句である。

木犀の香りの風来る夜道かな
着ぶくれて今川焼を抱き帰る
ジャムの蓋今朝は固くて冬初め
凧へ鉄吹き曝し電波塔
文日の日万年筆を愛用す
さつまいも掘れば絆の大家族
泥付きの笑顔の持てるさつまいも
一輪のコスモス胸のポケットへ
文化の日夫の料理の昼餉かな
焼諸を通りかかりによばれけり
毎日に心の清さ持ってます
どつしりと尻によく似たさつまいも
スタンプを押して紅葉の旅証
不愛想なれど売れてる焼諸屋
素人も一句捧げん文化祭
鳥渡るここが嫌いな訳でなく
吊るされし壺焼きのぞくさつまいも
寒さ急老のからだのうちたえし
畝毎の蔓切り甘諸さぐり堀り
諸を掘る園児の軍手泥に染む
老農夫畠に百の諸並ぶ
手話の娘の講演始め文化の日
鳥渡る異国に住む子空一つ
たましひを満タンにして鳥渡る

眞砂美
保幸
眞砂美
莊介
保幸
晴子
半夏生
弥生
節子
美智子
あや
眞砂美
節子
うめの
泰春
半夏生
うめの
公一
泰春
半夏生
公一
れいこ
半夏生

ねこじゃらし遊び疲れて髪白し
蔓太し期待膨らむ諸を掘る
縄文の歴史辿るや秋深し
薦紅葉古き館の朗読会
暮れきれず明るさ残る冬の空
柿実り鳥の機嫌で甘さ知る
秋草や摘みて食卓花とする
平穏な暮らし向きなりさつまいも焼く
留守電にして堀りに行くさつまいも
鉄深く子だくさんの諸を掘る
荷を解けば里のほひの次郎柿
冬浅し夫のクシャミで目が覚めて
街角に焼諸売りの煙立つ
秋日和猫にも人の好き嫌い
二度咲きの金木犀に夫偲ぶ
暮敵の諸バケツごと呉れゆけり
スーパーの焼き諸売り場に鐘響く
ふかし諸兄弟げんかを収めをり
甘諸掘るや不意に妙案浮かびをり
対岸の人声聞こゆ薫日和
一輪車甘諸と孫を運びけり
畑仕事いつもおこじゆめさつまいも
重箱の蓋を押し上げ栗おこわ
つややかな光り手ざわり今年米
熊のため柿の木切ると友の言う
女性初総理生まれて甘諸煮えて
一人づつ渡る吊橋谷紅葉
歳時記も辞書もスマホや文化の日

半夏生
泰春
晴子
弥生
晴子
風月
弥生
保幸
美智子
れいこ
莊介
眞砂美
風月
晴子
うめの
保幸
美智子
れいこ
莊介
眞砂美
風月
晴子
うめの
保幸
美智子
れいこ
莊介
眞砂美

町長賞

菅沼 うめの

議長賞

菅沼 保幸

教育長賞

竹村 眞砂美

実行委員長賞

倉谷 節子



菊花展（寒川町菊花会）

10月30日（木）～11月3日（月・祝）寒川町民センター

異常気候で開花調整が難しく、これから10日先が満開時期と予測される。

スプレー菊



厚物



間管



一般作品

ふれあいデー（8月2日）に配布の菊苗を展示、立派に育てたと思います。



初日から3日後に撮影



搬出トラックに横込む前に・・・

盆栽展（寒川町盆栽会）

令和7年11月1日（土）～2日（日）寒川町民センター 盆栽の展示、整枝、整形の相談



阿諏訪 信夫／五葉松・イワオモダカ



石浜 太古／イワシデ・姫くちなし



宇屋野 拓／老爺柿・黒松・シダ



肥田 俊信／姫リンドウ・茅舎石



小島 宗一／真柏・イリザンショ



伊熊千恵子／椿・炉開き・雪坊主



石浜 太古／赤竹・野紺菊



石浜 太古／白マユミ・山モミジ



菊地 守／アケビ・ガマズミ・ホオズキ



石浜 太古／ピラカンサ・ヤブコウジ



石浜太古／桧・チン馬拉ッキョ



肥田 俊信／ロウヤ柿・ハゼ



石浜太古／黒松・豆ツタ



斉藤 靖一／五葉松・ピラカンサ



鈴木政江／西洋カマツカ・大文字草



鈴木 忠／五葉松・菊（赤ずきん）



阿諏訪 信夫／黒松・イワオモダカ



肥田 俊信／紅吊花・あけび



日尾政喜／五葉松・大文字草



星 康二／ノコン菊・黒松・コマユミ・サオトメ



阿諏訪信夫／五葉松
イワダレヒトツバ

寒川茶道同好会

呈茶席 11月3日（日）・親川郷民センター



煙草盆
主座のしるし
陶器は編集者
の陶芸の師の
作品でした

主宰者のお茶を楽しんで貰うが、お茶の道具の一つ一つの説明の中に現れ、初歩的な質問にも応えて頂き大変に勉強になりました。（編集者）



菓子
2種類用意
していただいた



茶杓
集（高台寺緑）



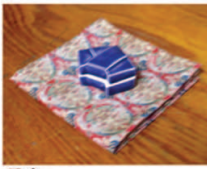
宮内洋子先生



昨夜一登雁



釜（矢筈）、秦野の名水



香合



花
椿（西王母）
ドウタンツツジ

煎茶の頂き方は沢山あるらしい、今回も初めて体験する方がほとんどのようでした。茶葉が流れ込まないように蓋で押さえ、隙間から勢いを利用して飲むという、楽しい頂き方。



スタッフの皆さん



蓋で茶葉が入らないよう頂く



軸／茶黄梨山玄妙



花
ススキ
ホトトギス
赤紅
リンドウ
ヤマゴボウ



お菓子は安納芋饅頭



先生（右）と同じ様にいただく（菊花会のメンバー）。



スタッフの皆さん

野ばら文化会

2025年度「短歌」作品（令和7年5月歌集より）



杉本 照代先生

小林 篤子

山上 幸

宮治 友美恵枝

二宮 昭雄

土屋 トミ子

清水 洋一

徳江 道子

亀山 文子

稲垣 武子

吾が庭にタチツボスミレ、シロスミレ、アカネスミレと咲くがうれしき
さ庭辺にさく蓮花またの春あふことあれなと目を閉じる
土手道に蓮を摘みし幼な日のふっと浮かびてしはし付む

杉本 照代

ピラカンサ真白き花と緑葉よ青空向かいさわかゆれる
それそれの幸せ刻む笑顔綻「後十年は」と傘寿の集い
煮物煮る野菜に浮かぶ子等の顔、笑顔満開五月の休日

小林 篤子

初めての言葉の波に揺れる心正しさを求め戸惑いの中
嬉しさに尻尾振る君愛おしく疲れも消えて心軽やか
ツツジ咲く道の傍らやわらかな光さしこみ初夏の訪れ

山上 幸

倉吉の赤瓦屋根に白壁土蔵歴史偲べる街並み続く
憧れの松江城のう天守閣嫁の手借りつつやとこ登る
留守の間に柘榴花、芍薬、クレマチス色取り取り庭華やかに

宮治 友美恵枝

「せんりょう」の赤い実の味がかな吾のさ庭にシヨウビタキ来る
「ほとけのざ」春の七草畑に咲くピンクの花が絨毯模様
父が逝き後十年目の命日に継いだシンビの花が満開

二宮 昭雄

一年生背中で踊るランドセル笑顔であいさつおかえりなさい
菜の花やだいこんの花どこまでも朝の散歩時花にかこまれ
トラクター出番とはかり田んぼではレンゲの花もこやしとなりて

土屋 トミ子

天子様囀 占ふ春夕焼明日の天気やなるを祈りつ
軸舞風庭にボタンの大輪やししまわがしひとり茶をのむ
桜舞ふ大往生の催儀のみち貧すれど清くかくも美し

清水 洋一

元氣にて米寿祝の姉がいて子、孫、ひ孫集うに吾もいたり
桜すぎ陽春の庭のクレマチス鳥の手入れにひととぎを過ぐ
突然に同級生の友来り昔話に思いつきぬ

徳江 道子

庭すみにひもと咲きいる小でまりの小さき花のあいらしさよ
青き芽が出たと思いつ二日後は二葉となりて柳の葉広がる
めきめきと伸びる庭草追いかけて吾忙し昨日も又

亀山 文子

別腹を足し足し歩くグルメ旅食べれるうちに歩けるうちに
早寝して夜中三時に目が覚めて深夜便聞き明け方を待つ
草むしり取るか残るか悩む時こぼれ種等発芽時なり

稲垣 武子



野ばら文化会

2025年度「詩歌」作品 毎月1回の定例勉強会「詩-8月の作品から」



ふれあい

稲垣 武子

八月二日第十一回「寒川文化ふれあいデー」が開催
文化連盟十七団体が参加
参加者が楽しめるアイデアと工夫を凝らした催し
野ばら文化会も今まで勉強した短歌、詩歌を展示
友人知人が見に来てくれた
久しぶりの人、懐かしい人達
会えてとても気分はハイ
野ばら会の参加者七名、皆で色々な催しに参加
童心に帰ってミニ電車
メダカすくいでも赤いメダカを五ひき
家でメダカを眺め
心癒される猛暑

追憶

龜山 文子



バケツがあちこちに置いてあり
雨漏りの音が響いた
ガラスのない窓から冷たい風
広い講堂の片すみで
有馬小学校入学式
養蚕で忙しかった父母の変わりに
姉に連れられて行った
受け持ちは宮崎百代先生
名前をよばれて
「ハイ」と大きな声を開けたが
声が出なくて姉に叱られた
先生は羽織袴で凛々しく
とても優しくかった
男児は紺の着物で膝丈
女児は紺の着物にモンペ
私は母の着物で作った洋服
数人だった服の人はハイカラさんと
呼ばれていた
教科書も文房具も無く
皆姉兄のお下がり

愛犬と

山上 幸

草露がキラリ 緑が生き生き
愛犬の足音嬉しそう
その姿に心が躍る
初夏の空は澄みわたる
太陽が微笑みかける
毎日の喧騒を忘れ
この穏やかな時間
今日一日何か良いことありそう

ドキュメント七十二

宮治 友美枝

NHKのドキュメント七十二を観る
今日の舞台は立命館アジア太平洋大学の寮
学生の半数が世界九十余国からの留学生
一年生のみ千五百人が暮らす
フロア毎に上級生の指導者が二名
孫娘がここで楽しい一年間を過ごした
この番組で当時の生活を垣間見たいと思う
大学は大分県別府駅から車で十分の山の上
寮も同じ敷地内に
寮内の共通語は日本語と英語
伝達事項は英語
廊下の両側に個室が並ぶ
六畳程の広さベッド トイレ 収納庫
原則自炊
フロア毎に共同の炊事場 食堂 風呂 数十台の洗濯機

おたまじゃくし

土屋 トミ子

稲が根づいて 青々と
そのまわりを
おたまじゃくしが
スイスイ
まだたまごから
はいだしばかり
尾もあり
泳ぐ姿はとてもかわい
暑いなか足をとめる
カエルになる瞬間が
見たい
しばらくちどまり
みいつてしまった
まだまだ時間がかかるよう
楽しみを次回にと
その場をさった

落葉

清水 洋一



花粉に装う花たち
緑燃える猛暑の夏
蝶は花と遊び虫たちも
鳴けるものは思い切り鳴く
懸命に命を生きる
ありあまる雷霆は
動きを止める
花のことは風のことば
誰にも聞かない
やがて秋の風が吹き
雑草や木樹の葉は茶紅色に染まる
色付いたものだけが散る
瀟洒に美しく散る
身を軽くものあわれを散る
杞憂なく散る
ためらい来る未来のために
いさぎよく散る

ひまわり

小林 篤子

真夏の青空のもと
黄色で元気に咲き誇るひまわり
太陽のようだ
コナナハコのは
ひまわりを見ると
元気が希望が湧いた
友に会えない寂しさで
ひまわりの絵手紙を
いっぱい書いて出した
暑さに負けず
堂々と咲き誇っている
英名サンフラワーもうなづける
今年の猛暑に
何本かは首をうなだれている
(まあいいか)ひと休みもいい！
ひまわりは希望だ！

美術館を独り占め

三澤 芳彦

箱根のポーラ美術館に行った
朝一番 開館と同時に入場
他の入場者は誰もいない
スタッフも持ち場に着いたばかり
静寂の中 名画が私だけに語りかける
何所で観ようが
どんな姿勢で観ようが
思いのまま 美術館を独り占め
こんな贅沢があるだろうか
大富豪のコレクションになったよう
窓の外には箱根の森
その中にも屋外作品が点在
美術館の設計者の意図が良くわかる
化粧品会社のコレクション
美にはこの上なくこだわる審美眼
東京の美術館では味わえない感動
個人は言った 箱根の山は天下の険
今その深き森が芸術美術品の宝庫に
美術館に行くなら朝一番がいい

平日の夕食や土、日は食材を持ち寄つての食事作り
見た事もない食材や料理が映し出される
数カ国の料理が並ぶことも珍しくない
賑やかな食事風景 たのしもう
入浴の付き合い 留学生達も湯舟に
和気調々の雰囲気伝わってくる
女子学生の姿が少なかったのが残念
この撮影は入学後一ヶ月も経過しない時のもの
一年の間に学校にも日本の生活にも慣れて
楽しい学生生活を送ることを祈る

寒川美術協会 第56回寒川美術協会展

6月14日(土)～21日(土) 寒川町民センター

昨年に比べ天気に恵まれ、来場者は増え、天候の影響を強く感じました、しかし、会員数と参観者数が比例関係にあることは否定できません、また会期初めは強風で立て看板の用紙が吹き飛びセロテープで巻く対策を講じました。作品は少数ながら、会員、会友共にいつも通り力量あるまとまりで、展示会に於ける大きな作品の魅力を強く感じました。また、会員の中にはメイン作品と小作品の2点出品を心掛けてくれる等ご配慮には感謝する次第です。総会では、本紙題字揮毫の 管 泰二監査役が退会され、新たに現委員の田中 博子さんが兼務で監査役就任が採決されました。秋の文化祭、これから制作の方は自分の枠を飛び出し、皆が驚くようなインパクトある作品を期待致します。

絵画・彫刻・陶芸(陶板含)



柘植 勝《鳥唄》



柘植 勝《俘虜》



手嶋 三孝《鶏圖》



小林 正光《赤・白》



小林 正光《雪中参行く》



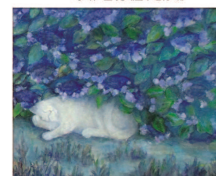
小林 正光《約様カップ》



八幡 一郎《風薫る》



飯尾 博美《箱根峠》



深谷 さち子《夏は来ぬ》



深谷 さち子《ZZZ-ZZZ-ZZZ》



藤咲 功治《薨の街意多力》



藤咲 功治《鶴崎八幡大銀杏》



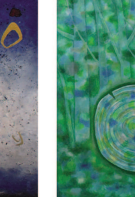
山口 政巳《花 舞》



山口 政巳《高砂緑地茶室》



八幡 一郎《蒼 茫》



三留 雅子《森の記憶》



志村 口バ《お話の時間》



志村 口バ《自転車》



村松 弘昭《旅立ちの朝》



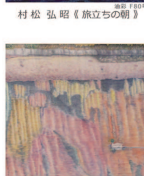
藤井 淳子《囁れる》



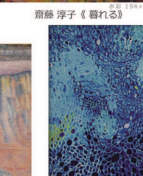
大貫 達雄《山からのメッセージ》



飯尾 博美《白い家》



高橋 貞雄《港の紅葉》



吉留 美智子《黄色のゆり》



元田 太《VACANCES》



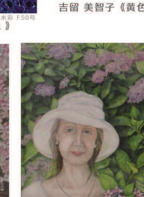
元田 太《花》



田中 博子《フラメンコシリーズ》



鈴木 光代《庭の枝垂れ桜》



鈴木 光代《長谷寺にて》



米丸 忠雄《完熟のゴーヤ》



田中 博子《花》



管 泰二《ホテルの窓からの紅葉》



管 泰二《日出の出発》



上林 俊行《港湾めぐり》



上林 俊行《ある日の海岸》



村松 弘昭《裏庭様》



ロバさんと星野議員



大貫先生と阿部議員



看板製作



受付



看板・作品札の制作



会期後の記念撮影



後中島 聖二さんの雨傘
中島さんの筆跡が出版
に際し力添えをして
下さったとのこと。



休憩コーナー(展示室内)
作品集、文化遺産活動アルバム
などで活動の軌跡を振り返る。

春の盆栽展（寒川町盆栽会）

4月26日（土）～27日（日）寒川町民センター
盆栽の展示、整枝、整形の相談・実演。



雪モチ草



岸 貞夫 / 銀杏・雪モチ草



川島 松三 / 黒松・ムサシアブミ・ニレケヤキ・雪ノ下



石浜 太古 / 黒松・山モミジ



阿諏訪 信夫 / 赤松
イワダレヒトツバ



石浜 太古 / 真柏・姫桑



阿諏訪 信夫 / 五葉松
タンチョウソウ



岸 貞夫 / 五葉松・真柏



小島 宗一 / イワシデ・コマユミ



斉藤 精一 / カエデ
ホタルフキ



鈴木 政江 / サンシュウバラ・イタドリ



鈴木 忠 / 黒松・ギボウシ



入口から一撮



日尾 政喜 / 真柏・モミジ



伊熊 千恵子 / 寒グミ・スズラン・真柏・八重姫・立金花



肥田 俊信 / モミジ・長寿梅



石浜 太古 / 真柏・ツメレンゲ・クチナシ



星 康二 / 吊り花・真柏
安部川石・ニオイ桐
チリメンカズラ



伊熊 千恵子 / 真柏 3点



肥田 俊信 / 五葉松・エゴ



宇尾野 拓 / 赤松・黒松・猫の手・堇



盆栽の整形、完成形を念頭にバサリ



菊地 守 / 定家葛・ふき

寒川書道連盟 小品書道展（会員展）

令和7年5月13日（火）～18日（日）寒川町民センター



寒川町教育長
大川 勝徳 様



寒川町町長
木村 俊雄 様



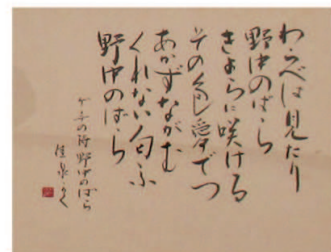
寒川町議会議長
岸本 優 様



神奈川県議会議員
山本 哲 様



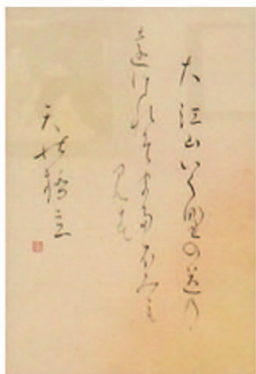
西山 暁秋



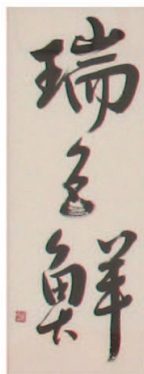
小菅 佳



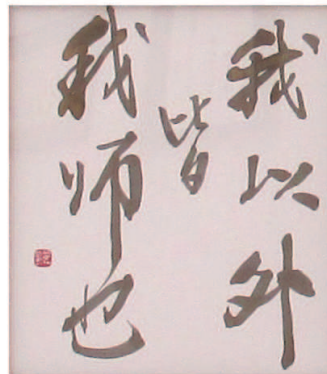
富岡 登



江藤 妙風



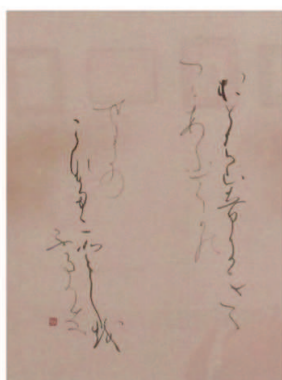
西山 美雪



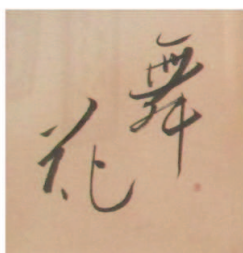
唐木 麗風



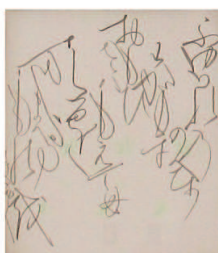
川村 律香



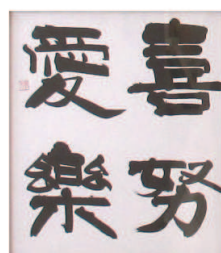
北村 師子



小野寺 芳枝



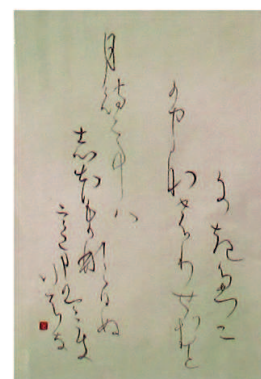
大山 茂



木内 輝湖



伊藤 笄子



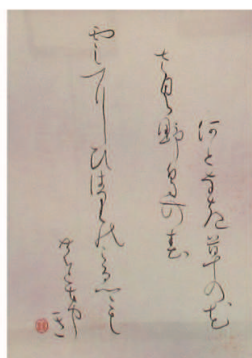
時崎 トヨ子



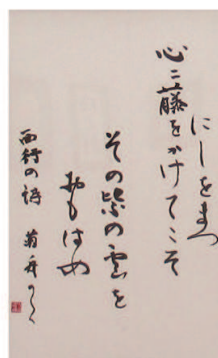
中島 霞舟



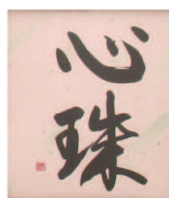
鈴木 栖娃



佐藤 美佐



渋谷 菊舟



山本 実莉



嶋野 雅風

